

# 爆音 宇宙用エンジン

岡谷工業高で開発企業が実演



緒川社長(手前左)の操作で燃焼するエンジン(中央)。爆音に生徒たちは耳をふさいで見つめた

岡谷工業高校(岡谷市神明町)で15日、宇宙飛行用に研究開発が進められているジェットエンジンを実際に燃焼させる実験があった。機械科3年生が取り組む課題研究の一環で、名古屋市のベンチャー

企業の社長が指導。校内の実習室にジェット機のような爆音が響き、生徒たちは驚いた表情で耳をふさぎながら、興味深そうに見学していた。

## 生徒「感動 もっと研究したい」

バルスジェットエンジンと呼ばれる種類で、一般的に飛行機に使われるガスタービンエンジンは圧縮した空気を燃焼させるのに対し、空気を圧縮させない単純な筒状の構造が特徴。同校は8月、有人宇宙飛行機の開発を進める「PDエアロスペース」の社長、緒川修治さん(39)が開発したエンジンを実験のために購入した。

実験では、同科の2、3年生約70人が見守る中、緒川さんが長さ約70cmのエンジンにガソリンを供給して点火すると、爆音とともに、筒状のステンレスの表面が約800度に熱せられて真っ赤になった。

課題研究は各自がテーマを設定して4月から取り組んでいる。同エンジンの研究は4人の生徒が進めており、これまでに空き缶を使って構造を研究してきた。実際に点火を体験した3年生の小林哲也君「富士見町」は「音に圧倒され、すごい感動した。もっと研究したい」と笑顔で話した。

今後も学校を訪れて研究を手伝う緒川さんは「実験でうまくいかない時に、すぐにあきらめないで、とことんまで突っ込んでほしい」と呼び掛けている。